

明けましておめでとうございます。
今年もよろしく願いいたします。

◎23年度総会報告

日 時:12月18日(日) 15:00~17:30、

場 所:「アイスクエアビル」(40-2002 5F 大会議室)

小澤健志さんには、「好生館病院附属医学校とドイツ人医師デーニッツ」の発表をいただきました。明治初期の西洋医学への普及を、全国的な動向、相良知安の活動なども含めてお話いただきました。デーニッツについて、十分、ご報告できなかつたので、4月15日に予定されている、4月の研究会にも発表したいと意欲的なご回答をいただいた。

石井倫平先生からは、高安病の発見者、小城出身高安右人についての話や関連する医学界の動きや大きな医学史について話していただいた。

青木歳幸は、曲直瀬家門人の佐賀藩医たちの新しく判明した、牧家やその周辺の事情について報告するとともに、東京麻布十番の賢宗寺の川崎家墓と、それに関連して賢宗寺の鍋島勝茂の墓、勝茂背後にある洪浩然の板碑についても紹介した。かつ佐賀大所蔵医学書のうち、『解体新書』の内容紹介や産科医片倉鶴陵の『青囊瑣探』にでてくる肥前出身門人、横尾斐、松村文郁、産科医水原三折の『産育全書』にでてくる肥前の産科医北島常美が、北島元碩で、佐賀の数え歌にでてくる、三に北島といわれる人物であることを紹介した。

古藤会員から、公文書館の動きについて、進展していることなどの報告があった。馬場・副島会員からは武雄の医家のうごきや久池井家の話があった。相良会員からは、相良知安が医学界で世界を代表する8人の医人切手に載せられたことを紹介された。

懇親会も近くのさかなや天国で行われ、和やかに医学史談義をかさねて有意義であった。

◎24年度事業計画

1)研究会 4月15日(日) 15時から、報告者募集します。

小澤健志氏はデーニッツについて予定。

2)県内医史跡めぐり・・・6月10日、 鳥栖市内か、佐賀市内、検討中

3)県外医史跡めぐり・・・ 9月9日(日) 平戸商館跡

4)研究会・総会・・・ 12月16日(日)

◎編集後記

新年早々から多忙を極め、ようやく会報をだすことができました。総会寺に、久池井家(医史跡マップ25頁の医師)について詳細な系図をいただきました。添付します。また、佐賀大学で2月4日、5日と地域学と世界遺産に関するシンポジウムを開催します。入場無料です。これもぜひ、おでかけください。 本年もよろしく願いします。 青木歳幸

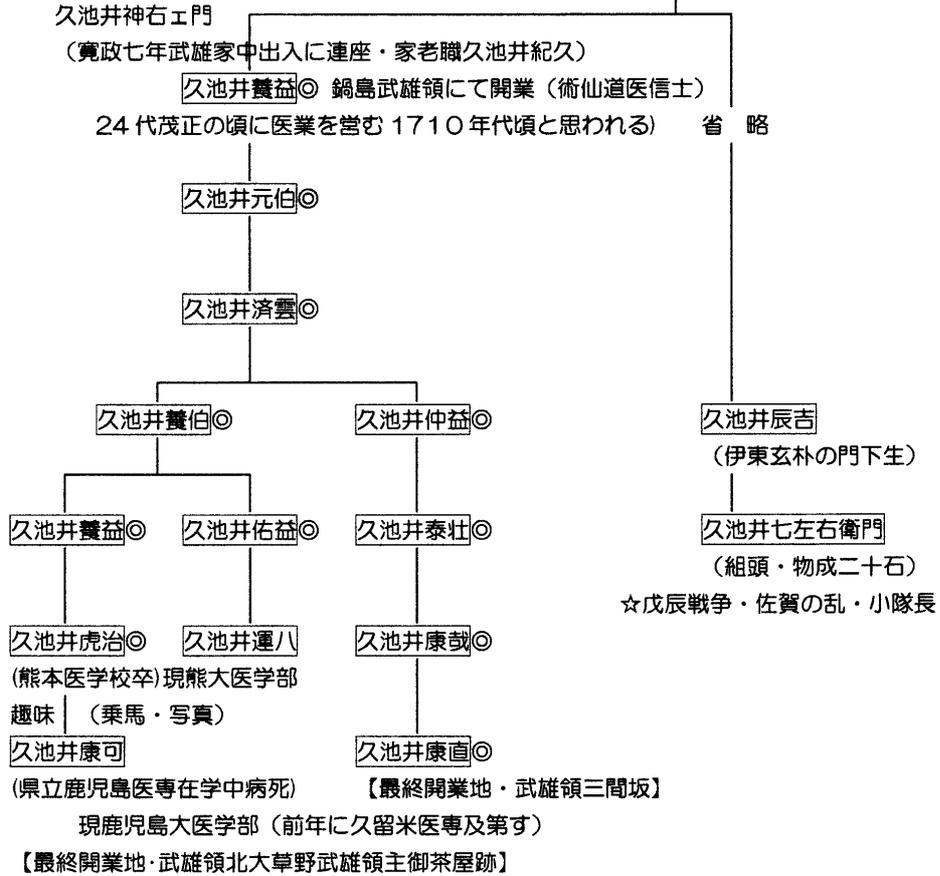
久池井医家の始祖

出自・平国香—伊勢新九郎盛時の一族（伊勢平氏）

久池井弥五左右衛門

(20代後藤家信の五十人士のひとり・番頭)

☆ 知行地・梅野村300石を拝領す



- ◎ は、医師
- 久池井辰吉・武雄領家臣 物成二十石 武雄領より6名入門す
伊東玄朴の江戸蘭学塾・象先堂門下生、蘭学の業ほぼ成り
28代 茂義公は、辰吉を蘭国に派せんと欲し召選の途中病（全身脚気）のため大阪にて逝く惜しむべし（健在ならば中村諒庵の後継者…）
 - 久池井運八 日田の咸宜園にて宮原忠直等と学ぶ
 - 虎治6女（可子の嬢）平川良秀（九州帝国大医学部卒）と共に地域医療に貢献す
 - 平川良秀（長女の次男）水田医師（名古屋市立大医学部卒）現在北海道精神科医

久池井康可提供
2011.12.18

第4回地域学シンポジウム I 部

テーマ「地域学研究への提言」

趣旨 我が国には地域の冠名をほどこした地域学が、それこそ無数に存在します。その目的は地域づくり、地域連携、地域史研究、地域文化研究、民族文化研究等多様です。本シンポジウムにおける各地の地域学研究の実践と成果報告から、地域学とは何か、地域学推進の意義等についての共通理解を深め、我が国地域学研究を深化させ、かつ縦横自在に世界に開かれた地域学を提言していきます。

主催:

第 I 部: 佐賀大学・地域学地域学歴史文化研究センター・地域学創出プロジェクト

第 II 部: 佐賀大学・地域学地域学歴史文化研究センター・地域学創出プロジェクト
佐賀市

後援(依頼中): 佐賀県、佐賀市、佐賀新聞社、STSテレビ、NHK佐賀放送局

2月4日(土)

会場 佐賀大学経済学部4番教室

日程

10:00～ 開会 オープニングセレモニー

10:30～12:00 基調講演 I

■板垣雄三東京大学名誉教授、東京経済大学名誉教授
(日本中東学会会長、日本イスラーム協会理事長、
日本学術会議会員などを歴任、文化功労者、イスラーム学)
演題「《地域学》推進への提言」

昼食

13:00～14:10 基調講演 II

■上山和雄國學院大學教授、横浜開港資料館長
演題「地域学の面白さと難しさ—渋谷学の実践から」

14:10～14:40 実践報告

■青木歳幸地域学歴史文化研究センター教授
演題「佐賀学のススメー問題提起にかえて」

休憩

15:00～15:40

■田口洋美東北芸術工科大学・歴史遺産学科教授、東北文化研究センター副
所長、狩猟文化研究所代表
演題「東北文化研究センターと東北学のあゆみ」

15:40～16:20

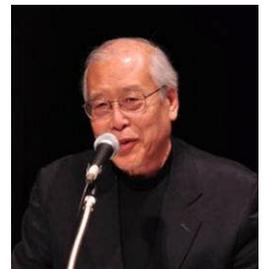
■柳原邦光鳥取大学・地域学部教授
演題「〈地域学〉を創る」

16:10～17:00

地域学シンポジウム

パネリスト: 板垣、上山、青木、柳原、田口

テーマ「地域学推進の意義・我が国地域学研究への提言—」



板垣雄三氏・東大名誉教授



上山和雄・國學院大學教授



田口洋美・東北芸術工科大学
教授



柳原邦光・鳥取大学教授

第4回地域学シンポジウムⅡ部

テーマ「地域学と世界遺産」

佐賀県・佐賀市は九州・山口近代化産業遺産群の世界遺産登録をめざして調査研究をすすめています。本シンポジウムでは、三重津海軍所跡の調査研究を核にして、地域学研究のすすめかた、地域学研究と在来知(在来技術・経験知等)の関係、地域文化遺産の保存・活用、未来の地域文化遺産づくりをどうすすめるべきかを考えていきます。

2月5日(日)・

会場 佐賀大学経済学部4番教室。

12:50～ 開会

13:10～14:00

基調講演Ⅰ.

■長野暹佐賀大学名誉教授

演題「地域学研究と在来知」

基調講演Ⅱ.

14:00～15:10

■安達裕之東大教授

演題「佐賀藩の洋式船導入と三重津海軍所」

休憩

15:20～ 地域学・世界遺産シンポジウム

テーマ:地域学と世界遺産

パネリスト 成富、前田、野口、安達、長野

実践報告

成富直行(佐賀市歴史まちづくり課課長)

・「九州・山口の近代化産業遺産群について」

前田達男(佐賀市教育委員会文化振興課世界遺産調査室長)

・「三重津海軍所跡の考古学調査について」

野口朋隆(佐賀大学非常勤博士研究員)

・「三重津海軍所の歴史性」

コメント

安達裕之(5分程度)

長野暹(5分程度)

15:55～16:30 質疑

16:30 閉会

○入場無料、事前申し込み不要

・問い合わせ先

佐賀大学地域学歴史文化研究センター 0952-28-8379

e, mail chirebun@ml.cc.saga-u.ac.jp



長野暹・佐賀大学名誉教授



安達裕之・東京大学教授

講師略歴

板垣雄三氏

1931年、東京生まれ

東京大学文学部西洋史学科、同大学院修士課程修了

元東京大学東洋文化研究所教授、

東京大学名誉教授、東京経済大学名誉教授

専門：歴史学、イスラーム学、国際関係論

主な著書：

『歴史の現在と地域学—現代中東への視角—』、岩波書店、1992

『世界史の構想—地域からの世界史』朝日新聞社、1993

『1968年の世界史』、共著、藤原書店、2009 など。

日本中東学会会長、(社)日本イスラーム協会理事長、日本学会協議会員など歴任。2003年文化功労者。「イスラーム化」、「日本アラブ国際共同研究」、「イスラームの都市性」、「イスラーム世界との文明間対話」など、国際プロジェクト組織者。東京大学大学院で地域文化研究専攻コースの設置に奔走。1978年政府の中東文化ミッション(団長・梅棹忠夫)参加ののち、国立民族学博物館地域研究企画交流センターJCAS設立作業に従事。日本学会協議において「地域研究」研究委員会の設立(2003年)のため尽力。

本シンポでは、我が国地域学研究の深化と縦横自在に世界に開かれた地域学への提言をいただく。



上山和雄氏

1946年、兵庫県生まれ、

東京大学大学院人文学研究科博士課程卒業(単位取得退学)

國學院大學文学部教授、横浜開港資料館館長、國學院大學渋谷学研究会代表。文学博士

専門：日本近現代史、

主な著書

『陣笠代議士の研究—日記にみる日本型政治家の源流』、日本経済評論社、1989

『北米における総合商社の活動、1896年から1941年の三井物産—』、日本経済評論社、2005

『歴史のなかの渋谷、渋谷から江戸・東京へ』編著、雄山閣、2011 など。

近現代史研究、とくに経済史、日米交流史、地域史を中心に研究し、平成22年に「渋谷学」シンポジウム「地元を『科学する』ということ」を主宰し、大学における共同研究として、地元を科学することの学問的意義や地域貢献の意義を問うてきた。本シンポにおいては、「渋谷学」の実践から、現代の諸問題の考察における地域学の意義とその課題について講演いただく。

田口洋美氏

1957年、茨城県生まれ

東京大学大学院研究科博士課程修了、(博士・環境学)

東北芸術工科大学・歴史遺産学科教授

東北文化研究センター副所長、狩猟文化研究所代表

専門：民俗学、文化人類学、地理学、環境学

主な著書

『越後三面山人記-マタギの自然観に習う-』、農山漁村文化協会 1992、改訂版 2000、『マタギ

-森と狩人の記録-』、慶友社 1994、『マタギを追う旅-ブナ林の狩りと生活-』、慶友社 1999、

『ロシア極東の民族考古学』共著、六一書房 2005 など。

マタギ研究の第一人者で、映画の助監督もつとめ、1990年「マタギサミット」(ブナ林と狩人の会)を發起し、現在も主宰幹事である。近年は、ロシアシベリア地方の北方狩猟民族の調査・研究も行っている。

本シンポにおいて、地域学研究の先駆者としての東北文化研究所と東北学のあゆみ、成果、課題、提言等について講演する。



柳原邦光氏

1956年島根県生まれ、
広島大学大学院文学研究科博士課程単位満期取得(西洋史学専攻)
鳥取大学地域学部地域文化学学科地域文化形成論講座教授
専門 ヨーロッパ近代史、フランス近代史

主な著書

「フランス革命と長期的持続—聖職者リクルートと宣誓問題を通して」(岡本明編著『支配の文化史』、ミネルヴァ書房、1997所収)

『地域学入門—くつながり)をとりもどす』ミネルヴァ書房、

フランス革命期の非キリスト教化運動や現代フランスの「政治的なもの」と「宗教的なもの」との関係に関心をもつ。地域学を理論化する仕事もしている。

本シンポジウムでは、鳥取大学の(地域学)を創る試み、地域のもつ意味、地域文化とのかかわり、希望の学としての地域学などを、『地域学入門』の成果紹介とあわせて、ご講演いただく。



長野暹氏

1931年、愛媛県生まれ
九州大学大学院経済学研究科博士課程卒業(単位取得退学)
佐賀大学名誉教授、経済学博士、文学博士。

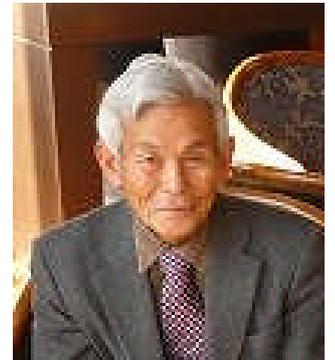
主な著書:『佐賀藩と反射炉』新日本出版社、2000

『幕藩制国家の領有制と領民』、吉川弘文館、2004

『八幡製鉄所史の研究』日本経済評論社、2003など。

幕藩体制国家領有形とその解体についての研究を佐賀藩・西南諸藩を中心に論じた。文部科学省特定領域研究「略称:江戸のモノづくり」において、佐賀グループ代表として反射炉、四郎島砲台等佐賀の歴史遺産研究に邁進し、幕末科学技術研究会を主宰して、地域文化遺産研究を進めた。さらに日中の製鉄技術における比較研究をすすめるなかで、地域研究における在来知の視点からの研究の重要性を説く。

本シンポにおいても、佐賀の歴史文化遺産分析から我が国文化受容と創造における在来知の意味を講演する。



安達裕之氏

1947年、大阪市生まれ
東京大学工学部船舶工学科卒業
現在、東京大学大学院総合文化研究科教授
専門:海事史、造船史、技術史、

主な著書:

『調べ学習日本の船の歴史』(学習研究社)、

『異様の船—洋式船導入と鎖国体制』(平凡社選書、1995)

『日本の船 和船編』日本海事科学振興財団船の科学館編、1998など

日本の船の歴史、主に機械化される以前の船の歴史を研究し、蒸気船出現以前の時代には、地域が違えば、船も違うのが普通であったこと、日本はヨーロッパとともに、船の大型化の過程がわかる数少ない地域であることを明らかにした。とくに弁才船の模型の図面化と幕末に導入された洋式造船技術をめぐる問題で、洋式造船法の普及、近代的な海事産業の育成、海軍の創設、海運の近代化について研究されてこられた。

本シンポでは三重津海軍所や凌風丸の製作意義等を上記の視点から講演いただける予定である。

